

現在の陸前高田市の子どもたちがどのような状況にあるのか、諸調査を基に分析した結果を、知育・徳育・体育のそれぞれの視点からお知らせします。学校、子ども、保護者、地域、行政の5者が、情報を共有することで、子どもたちの可能性を一層伸ばすことができると考えています。

本市がめざす学校教育

陸前高田市教育委員会では、「**確かな生きる力**」を育む学校教育の充実を通して、**将来のまちづくりを担う子どもの育成**を目指しています。

（「確かな生きる力」とは、子どもたちが自らのよさを発揮しながら、社会に適応できる能力のことです。）

目指す子ども像

- ◇心身ともに健康で、意欲的に活動する子ども
- ◇確かな学力(各教科の学習内容等)を着実に身につける子ども
- ◇自己の生き方を見つめ、目標実現に向けて向上心をもって取り組む子ども
- ◇社会規範をしっかりと身につけ、自他を尊重する子ども
- ◇地域の一員としての自覚と愛着を持ち、地域を大切に使う子ども

H28年度具体的取組

知 育

学力向上の推進

- ◇諸調査を位置づけた授業改善を推進し、「わかった」「できた」と実感できる授業を目指します。
- ◇家庭学習の習慣化と、放課後等の自主学習の場の充実に努めます。
- ◇学級経営と教員の資質向上研修の充実に努めます。
- ◇外国語教育、理数教育、情報教育の充実に努めます。

徳 育

豊かな心を育む教育の推進

- 道徳教育や特別活動の充実により、地域や郷土を愛する心を育成します。
- 学校図書館を整備し、読書活動の充実を図ります。
- いじめ、不登校等への迅速かつ組織的な対応を行います。

体 育

健やかな体を育む教育の推進

- 体力の向上と運動に親しむ態度を育成する学校体育の充実に努めます。
- 健康教育の充実と、基本的な生活習慣の充実に努めます。
- 安心・安全な学校給食の提供と、食育の推進を図ります。

中学校区ごとに目指す子ども像の共有を図り、9年間を見通した継続的な指導の推進を目指します。

【参考】①活用した調査は以下の通りです。

- ・標準学力調査（4月実施） ・平成28年度全国学力・学習状況調査（4月実施）
- ・平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査（6～7月実施）
- ・平成28年度定期健康診断結果

②本内容は市のホームページも掲載予定です。

1 知育について

小学生の学力は、おおむね良好

中学生の数学と英語は、学年が進むにつれて課題

(1) 学力について

- 小中学校の学力は、各種調査の全国の平均正答率と比較するとおおむね同等ですが、身につけた知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力にやや課題がみられます。
- 中学校の数学と英語においては、学年が進むにつれて正答率が全国平均を下回る傾向にあります。

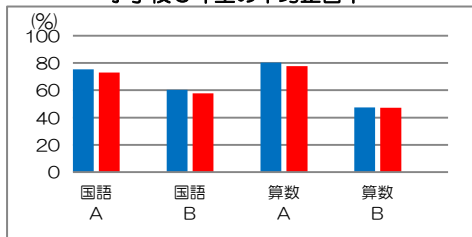
[グラフについて]

■は陸前高田市 ■は全国を表しています

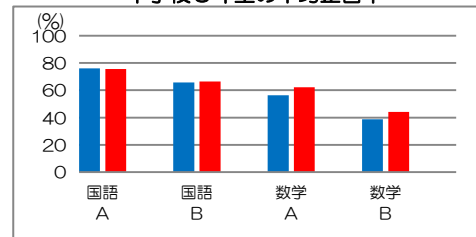
全国学力・学習状況調査

毎年4月に全国全ての小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施するものです。A問題は主に基礎的な知識に関する内容、B問題は主に知識を活用する力を問う内容となります。学習習慣等を問う質問紙調査も行います。

小学校6年生の平均正答率



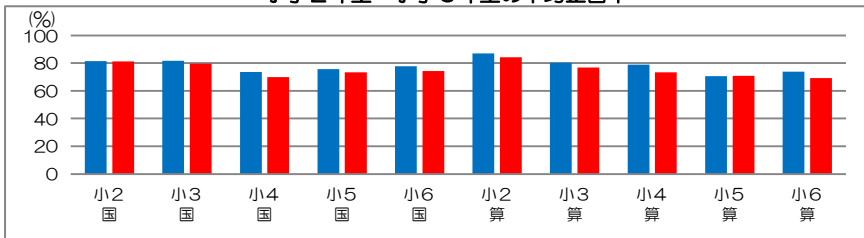
中学校3年生の平均正答率



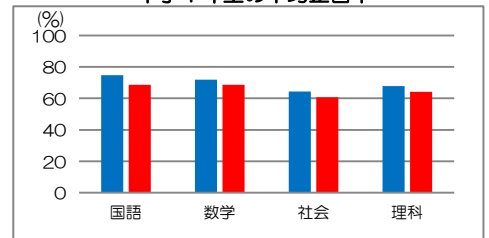
標準学力調査

毎年4月に本市の小学校2年生から中学校3年生までの児童生徒を対象に、市教育委員会で実施する全国規模の学力調査です。学習習慣等を問う質問紙調査も行います。質問紙調査は、小学校3年生から中学校3年生までが対象です。

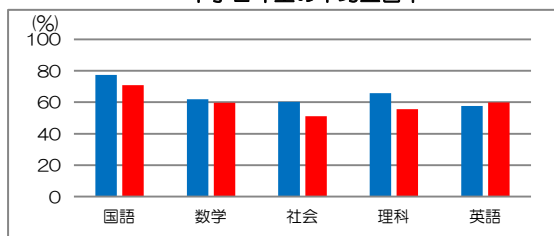
小学2年生～小学6年生の平均正答率



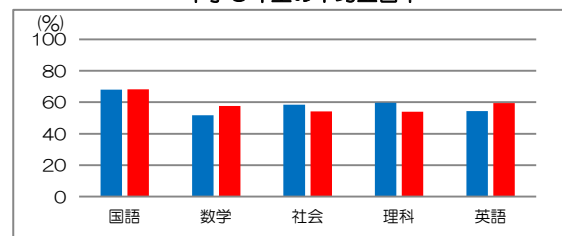
中学1年生の平均正答率



中学2年生の平均正答率



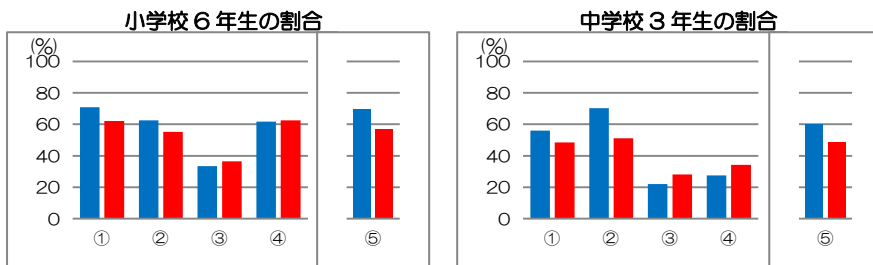
中学3年生の平均正答率



(2) 学習習慣について

(全国学力・学習状況調査における質問紙調査 小学校6年生・中学校3年生の結果から)

- 自分で計画を立て復習中心の家庭学習を行うなど、学習習慣が身についているといえます。
- 中学3年生においては、学校の授業以外で2時間以上学習する生徒の割合が、昨年度より10%以上増えており、望ましい傾向にあります。
- 読書習慣が身につけていない状況が昨年度から継続しています。
- 平日2時間以上テレビを見る割合が全国と比較して高い傾向にあり、家庭での時間の使い方を見直したいところです。



※全国学力・学習状況調査における質問紙調査より

【質問項目】

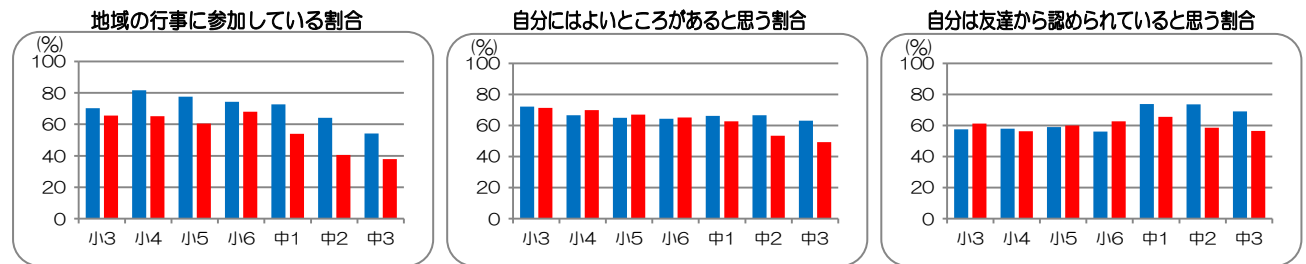
①自分で計画を立てて勉強している。
 ②家で授業の復習をしている。
 ③学校の授業以外で平日30分以上読書している。
 ④学校の授業以外で小学校6年生は平日1時間以上・中学校3年生は2時間以上勉強している。
 ⑤家で平日に2時間以上テレビを視聴している。

2 徳育について

小中学生とも、強い地域への思い

中学生は、自分に対する肯定的な気持ちを高く持続

- 全学年において、地域の行事に参加する児童生徒の割合が全国より高く、地域に愛着を持って生活している様子がうかがえます。
- 「自分にはよいところがあると思う」「自分は友達から認められていると思う」については、中学生は全国の割合を大きく上回っています。人の役に立った、人から感謝された、人から認められたという自己に対する肯定的な気持ちが生まれていることから、学校・家庭・地域等で、様々な活動における他者との関わりの積み重ねが適切に行われている結果ととらえます。



※標準学力調査における質問紙調査より

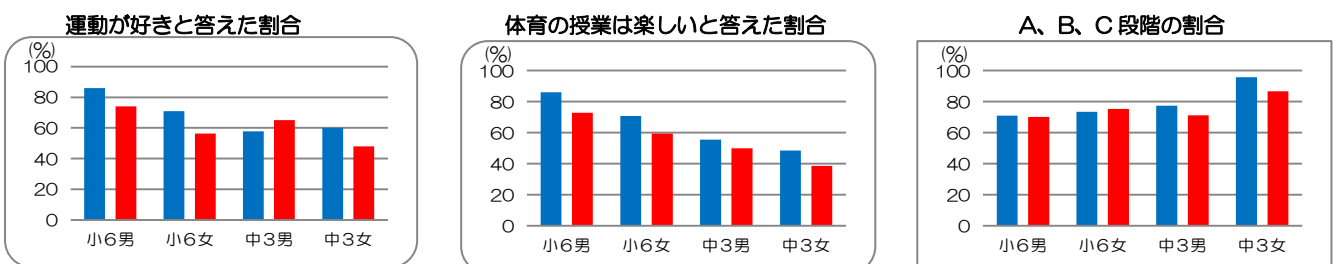
3 体育について

小中学生とも、体を動かすことが好き

う歯(むし歯)のある小中学生が多い傾向

- 運動が好き、体育の授業が楽しいと感じる児童生徒の割合とA、B、C段階の児童生徒の割合が、全国と比較して高くなっています。学校と家庭・地域との協働により、運動やスポーツの楽しさを感じさせる取組をとおして、今後も体力の向上を図っていきたいところです。

下のグラフは、小学校6年生と中学校3年生が昨年行った全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、全国と比較して示しています。A、B、C段階の割合とは、9種類の実技の合計得点により運動能力をA～E段階の5段階評価を行い、上位から中位層の割合のことで、県では、A、B、C段階の児童生徒の割合目標値を小学校74.6% 中学校83.4%に設定しています。

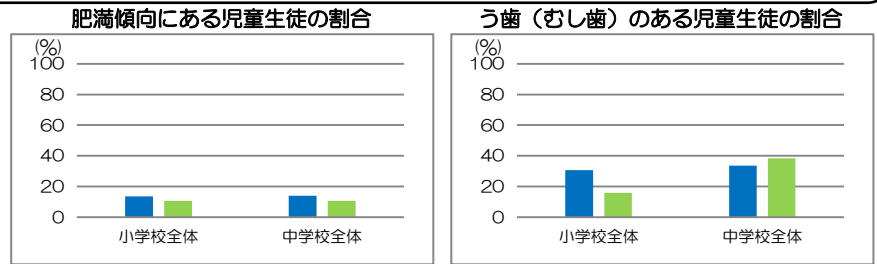


※全国体力・運動能力、運動習慣等調査より

下のグラフは、肥満傾向にある児童生徒の割合と、う歯（むし歯）のある児童生徒の割合を、岩手県と比較して示しています。肥満傾向にある児童生徒の割合とは、軽度肥満・中等度肥満・高度肥満の児童生徒を合わせた割合のことです。

■は陸前高田市の割合(%) ■は県の割合(%)を表します。

- 肥満傾向にある児童生徒が、岩手県よりやや多くなっています。
- う歯（むし歯）のある小学生が、岩手県より多い傾向にあります。



※H28年度定期健康診断結果より

4 今後に向けて

課題を改善するためには、教育委員会と学校、そしてご家庭や地域のみなさまと一体となった取組が必要です。そこで教育委員会と各学校では、下記のような取組を進めてまいります。地域の宝である子どもたちを共に育ててまいります。ご協力をお願いいたします。

■ 教育委員会では

- ・小中の連携を推進する研究会の開催、各校における校内研究や指導方法の改善の支援、先進校視察等とおして児童生徒の学力向上を図ります。
- ・道徳教育や特別活動の充実を図り、地域や郷土を愛する心と態度を育成するとともに、あいさつの励行やボランティア活動の推進により、相手を思いやる心を育成します。
- ・限られた場所で実施可能な運動プログラムの推奨と、運動ができる教育環境の整備によって、心身ともにバランスのとれたたくましい児童生徒の育成に努めていきます。

■ 各学校では

- ・中学校区ごとに小学校と中学校の9年間に学びの系統性を持たせ、継続的な教師の交流をとおして相互理解を深めながら個に応じたきめこまかい指導に努めることで、学力向上を図っていきます。
- ・学習や行事の際は、児童生徒に目標を設定して取り組ませ、その目標が達成できるように教師が助言や励ましを行い、努力の過程を認めることをとおして、自己に対する肯定的な気持ちを育てていきます。
- ・「希望郷いわて元気・体力アップ60（ロクマル）運動」に取り組みます。体育の授業、休み時間の遊びや運動、部活動、そうじなどの生活活動を合わせて1日60分以上体を動かし、運動習慣を身につけ、「体力向上」「肥満予防」「こころの健康」を図っていきます。
- ・担任や養護教諭・栄養教諭による保健指導や食育指導をとおして、心身ともに健康な子どもを育成します。

■ 家庭や地域では（お願い）

- ・学校の宿題や自主学習を行うなど、家庭学習の習慣を身につけさせましょう。その際、テレビを消して学習の雰囲気を作るなど、子どもが学習しやすい環境を整えましょう。（ノーメディアタイムの設定）
- ・子どもの努力や成長を積極的に認め、励ますことをとおして、人から認められた喜びを味わわせ、前に進もうとする心を育みましょう。
- ・「早寝、早起き、朝ご飯」と口腔衛生に気を配る基本的な生活習慣を幼少期から身につけさせましょう。
- ・メディアに接する時間を減らし、親子で家事をしたり、ニュースに対する意見を交換したり、一緒に運動したりする時間などを増やしていきましょう。
- ・携帯電話やスマートフォン等を使用することは、いじめや犯罪に巻き込まれる危険性を高めます。フィルタリングをかけたうえで使用状況を把握し、使用時間を考えるなど家族でルールを決めましょう。